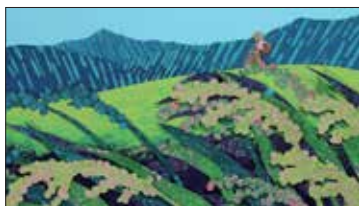


《企画意図》「涼風や青田の上の雲の影」この句が詠まれた江戸時代の情景と、地球温暖化が進み晩夏を過ぎても猛暑が続く現代を対比して見せることで、俳句に込められた季節の情緒が失われつつあることを示し、美しい季語が過去の遺物になってしまう危機について問題を提起している。（岡山県立大学 三好 杏奈）

風が吹く中
空を見上げながら歩く男性



(俳句を詠む声)

涼風や～
青田の上の～
雲の影

田んぼに
雲の影が重なってくる



(NA)

この句が読まれた頃は
今よりずっと
涼しかった。

教室で国語の教科書を
読んでいる生徒

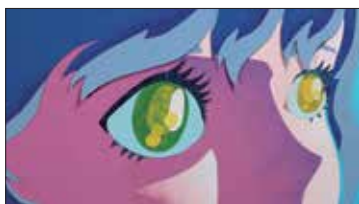


高い建物の上部に
太陽の光が
あたっている。



涼風はあと何年
夏の季語で
あり続けられるだろうか。

蝉の鳴き声が大きくなり、
生徒の顔に強い夏の日差しが
あたる



(蝉の鳴き声)

風が吹き抜ける教室



字幕スーパー
「『季語』が『死語』になる前に」

「季語」が「死語」になる前に
止めよう 地球温暖化

ACジャパンのロゴが現れる。



♪
ACジャパン

《寸評》CM表現のクオリティという意味では、ずば抜けていると感じた。ダントツで良かった。見やすい作品。温暖化も切実に伝わってくる。映像も言葉の響きもきれいで、スッと自然に見られた印象。全体的にバランスが良い作品。クラフトの素晴らしさ。学生とは思えないような品性・知性が気に入った。